

日本赤十字社 足利赤十字病院

〒326-0843

栃木県足利市五十部町284-1

代表電話 0284-21-0121

指導責任者：中村智之

病院ホームページ

<http://www.ashikaga.jrc.or.jp/about/index.html>



施設概要

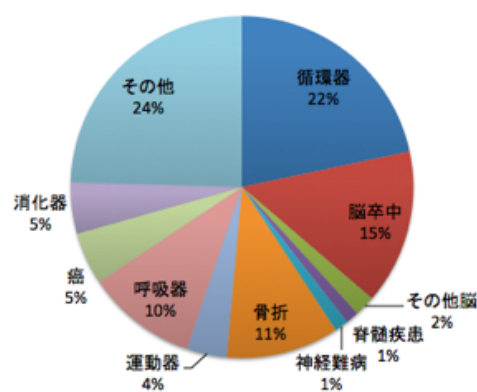
当院は両毛地区（栃木県南西部、群馬県南東部；人口80万）を医療圏とする病床数555床の救命センターを持つ地域中核病院で、2011年7月に新病院に移転しました。最先端の医療設備を有し、一般病棟全室個室を実現した独創的な建築の病院で関係者から注目を集めています。また、2015年2月JCIの認定を取得しています。JCIは米国に本部をおく医療施設に対する国際基準の機能評価機構で世界的に認知されているものです。この認定は日本で9番目、赤十字病院で第1号となりました。医療安全と医療の質の向上を世界に向け宣言し続ける病院の仲間入りを果たしました。

当院のリハビリテーション科はリハ専門医1名、療法士数は60名を数え日本赤十字社で最大規模です。さらに歯科医師3名、歯科衛生士2名が属して摂食嚥下リハビリテーションと口腔治療を行います。疾患別リハビリテーションは脳血管障害等、運動器、心大血管、呼吸器、がん患者が認可されています。

回復期リハビリテーション病棟は、リハセンターと同じフロアに配置し、病室・訓練室一体型で歩行路は直進で50m以上あります。回復期の平均在院期間は約60日、自宅復帰率は約90%です。これには当院の強力で適切な地域連携機能も含まれます。



平成26年度新患の疾患 N=2724



研修の特徴

①基本的な疾患・手技をほとんど全て経験できる

地域の中核病院で3次救急医療を担っている当院においては、地域で発生する様々な疾患を経験することができます。リハビリテーションは超急性期から回復期まで連続的に介入します。回復期リハビリテーション病棟では主治医として介入をしチームリーダーの役割を経験します。退院時には地域のケアマネージャーらとの協議を密に行い適切な退院計画を経験することができます。

さらに、院内では救命救急センター、各科急性期病棟、緩和ケア病棟など、多くの専門医により多彩な専門医療が提供されています。また療法士も豊富に揃い、専門医取得に必要な全ての領域の疾患・障害に対する治療手技、チーム医療を経験できます。



②リハビリテーションスタッフとの関わり方を学習できる

リハビリテーションの帰結を上げるためにリハビリテーション医が行わなければならないことはスタッフの教育です。スタッフの質を担保することは医療の

質を保つためにJCIの審査においても非常に重要視されるところです。定期的な勉強会、抄読会の開催、発表の指導、訓練方法の指導など、様々な形で療法士や看護師と係わることを経験します。さらに地域のリハビリテーションスタッフに対しての勉強会の企画も行います。

③歯科診療を含めたレベルの高い摂食嚥下リハビリテーションを経験できる

私たちの得意な分野は摂食嚥下リハです。言語聴覚士は12名、歯科医師3名、歯科衛生士2名で急性期から積極的に介入し成果をあげています。急性期病棟に歯科や言語聴覚士がどのように関わっているかを体験し、摂食嚥下リハビリテーションと、歯科の重要性をどのように展開するべきかを理解することができます。

【週間スケジュール】

		月	火	水	木	金	土	コメント
8:00~8:30	整形外科カンファレンス							整形外科との合同カンファです。
8:30~9:00	朝礼、病棟申し送り							療法士朝礼、回復期病棟の申し送りに参加して全体を把握します。
9:00~12:00	外来業務							
9:00~12:00	病棟業務							回復期病棟、リハセンターでの業務です。家屋調査にもでかけます。
9:30~12:00	装具診							
9:30~11:30	嚥下内視鏡回診							
9:30~10:30	ボトックス/筋電図							
11:30~12:00	抄読会							第1, 3土曜日開院しています。
11:45~12:30	ミールラウンド							
13:00~14:00	回復期病棟カンファレンス							ST、歯科と共に各病室内でVEを行い、リハ計画を立てます。
13:00~14:00	内科病棟カンファレンス							
13:00~17:00	病棟業務							回復期病棟の症例を3例ピックアップして、担当者が集まり協議します。
13:30~15:00	嚥下造影							
14:00~15:00	嚥下内視鏡回診							神経科との合同カンファです。
16:00~17:00	診断書外来							
17:00~17:45	高次脳機能カンファレンス							
17:00~17:45	嚥下カンファレンス							
17:20~18:30	療法士ミーティング 症例検討							療法士のミーティングに参加し業務のアドバイスなどをします。療法士の症例検討にも参加して教育的アドバイスをします。

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準			
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）			
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）			
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）			
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）			
がん患者リハビリテーション料			
附属・関連施設			
リハビリテーション科内歯科部門			
リハビリ医（指導医）数：	1（1）名	専攻医数：	1名
病床数（回復期）：	555（50）床		
入院患者コンサルト数：	50例/週	担当コンサルト新患者数：	10例/週
外来数：	25例/日	担当外来数：	5例/週
特殊外来		特殊外来	
痙縮治療	2例/週	痙縮治療	1例/週
装具外来	3例/週	呼吸リハ	1例/週
摂食嚥下障害	10例/週	摂食嚥下障害	5例/週
小児リハ	5例/週	小児リハ	1例/週
スタッフ数			
理学療法士	31名		
作業療法士	16名		
言語聴覚士	12名		
診療領域		診療領域	
（1）脳血管障害・外傷性脳損傷など	719例	（1）脳血管障害・外傷性脳損傷など	30例
（2）脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	34例	（2）脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	3例
（3）骨関節疾患・骨折	600例	（3）骨関節疾患・骨折	30例
（4）小児疾患	23例	（4）小児疾患	5例
（5）神経筋疾患	35例	（5）神経筋疾患	10例
（6）切断	7例	（6）切断	2例
（7）内部障害	1074例	（7）内部障害	20例
（8）その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	772例	（8）その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	20例
検査	9例	検査	6例
電気生理学的診断	93例	電気生理学的診断	10例
言語機能の評価	490例	言語機能の評価	10例
認知症・高次脳機能の評価	427例	認知症・高次脳機能の評価	100例
摂食・嚥下の評価	6例	摂食・嚥下の評価	3例
排尿の評価		排尿の評価	
	2771例		100例
理学療法	1215例	理学療法	100例
作業療法	1349例	作業療法	100例
言語聴覚療法	5例	言語聴覚療法	1例
義肢	86例	義肢	30例
装具・杖・車椅子など	25例	装具・杖・車椅子など	5例
訓練・福祉機器	588例	訓練・福祉機器	20例
摂食嚥下訓練	12例	摂食嚥下訓練	5例
ブロック療法		ブロック療法	

医療法人輝生会 初台リハビリテーション病院

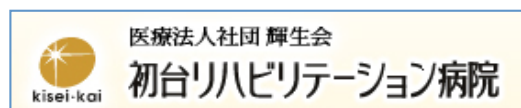
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3

代表電話 03-5365-8500

指導責任者：菅原英和

病院ホームページ <http://www.hatsudai-reha.or.jp/index.html>

医師研修ホームページ <http://www.kiseikai-reha.com/recruit/doctor/index.html>



施設概要

現在、保健・医療・福祉制度の改革が実施されつつあり、特に医療提供体制および医療保険・介護保険制度の見直しの時期にあります。このような変革期において、東京都23区内で急速に進む高齢化に対応したリハビリテーション医療サービス、特に回復期のリハビリテーション医療は不十分な状況です。そこで回復期及び地域リハビリテーションの推進を目的に医療法人を設立し、高齢者や障害をもたれた方々が再び輝いた楽しい人生を送れるようにという願いを込めて「輝生会」と名付けました。

初台リハビリテーション病院は、急性期病院から発症後1ヶ月以内に患者さまを受け入れ、住み慣れた地域や自宅で輝いて生活していただくために、十分な回復期のリハビリテーション医療サービスを提供することを使命としています。急性期病院からの速やかに患者さまを受け入れ、入院後は、日常生活動作(activity of daily living : ADL)の向上、寝たきり防止、在宅復帰を進め、さらには生活期との密な連携をはかります。



電子カルテを用いたチームカンファレンス

医師13名（内指導医3名）と看護師84名、ケアワーカー84名、セラピスト総数188名、ソーシャルワーカー11名、管理栄養士6名、薬剤師5名、検査技師4名で、回復期リハビリ体制を整備し、密に連携してチーム医療を展開しています。セラピストマネージャー制をとり、これまでの病院組織における各専門職種ごとの、いわゆる「たて割り」ではなく、病棟というケア現場を中心とした多職種でのチームアプローチを推進しています。そこでは全職種が共通の目標を持って、一つのチームとして活動することをポリシーとしています。



理学療法室

【併設施設・法人内関連施設】

訪問リハビリ

短時間通所リハビリ

外来リハビリ

船橋市立リハビリテーション病院

在宅ケアセンター元浅草

在宅ケアセンター成城



デイルーム



作業療法室

研修の特徴

回復期リハ病棟では脳血管障害・脳外傷・脊髄損傷・神経筋疾患・肢切断・骨関節疾患・廃用症候群等に起因する様々な機能障害を扱うため、医師には、合併症の予防・治療だけに留まらず、様々な機能障害の適切な評価、予後予測に基づいたリハビリゴール設定、リハビリ処方や装具処方、嚥下造影・嚥下内視鏡を扱う技能、患者のやる気を引き出しつつ障害受容も促すような絶妙なインフォームドコンセント、福祉・行政などを含めた幅広い知識、チーム医療でのリーダーシップ等、医師として極めて幅広い能力が求められます。当院の研修プログラムでは、医師がリハ医療のチームリーダーとして十分な心構え・知識・技術を身につけられるよう、リハビリ専門医および教育研修部、リハケア部が一丸となって教育指導体制を構築しています。

また、回復期・在宅両者の視点を持った医師に育ってもらえるよう、院内の訪問リハビリ部門や外来リハビリ部門あるいは同医療法人内の「在宅ケアセンター元浅草」や「在宅ケアセンター成城」での研修をお奨めしています。維持期（生活期）リハは、自宅環境での生活能力向上・本人役割の確立・QOL向上等病院での治療ではなかなか提供できないものをきめ細かく援助することが可能です。病院にいながら指示をするだけでなく、実際に訪問診療に携わり、訪問看護・訪問リハビリ・ケアマネジャーとの実務的な連携を図ることで、それらのノウハウをより深く学ぶことができます。在宅医療での研修が、質の高い「回復期からの家庭復帰支援、在宅ケアへのソフトランディング」を計画できる医師を養成すると考えています。

急性期リハビリの研修は、昭和大学・藤田医科大学・慈恵医大病院と連携し、専攻医のみなさんに都市部での回復期から維持期（生活期）リハビリテーションへの切れ目のない治療の流れを経験していただくことができます。

【週間スケジュール】

		月	火	水	木	金	土
8:30 - 8:50	スタッフミーティング						
9:00 - 12:00	リハ患者診察						
	病棟回診						
	装具診	随時	随時	随時	随時	随時	随時
	嚥下造影・嚥下内視鏡	随時	随時	随時	随時	随時	随時
13:00 - 13:30	Dr.ミーティング						
13:45 - 14:50	病棟カンファレンス	随時	随時	随時	随時	随時	随時
	装具診	随時	随時	随時	随時	随時	随時
15:00 - 16:30	ボトックス外来						
	指導医回診			4週			
	患者家族面談	随時	随時	随時	随時	随時	随時
13:00 - 13:30	Dr.ミーティング						
17:45 - 18:15	嚥下カンファレンス				4週		

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） 附属・関連施設 訪問リハビリテーションステーション 訪問看護ステーション 通所リハビリテーション施設 居宅介護事業所			
リハビリ医（指導医）数： 病床数（回復期）：		13（3）名 173（173）床	専攻医数： 1名
入院患者コンサルト数： 外来数：		10例/週 120例/日	担当コンサルト新患者数： 担当外来数： 1例/週 60例/週
特殊外来 痙縮治療 呼吸リハ 摂食嚥下障害 小児リハ		3例/週 0例/週 3例/週 0例/週	特殊外来 痙縮治療 呼吸リハ 摂食嚥下障害 小児リハ 3例/週 0例/週 3例/週 0例/週
スタッフ数 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 看護師 ケアワーカー MSW 管理栄養士 薬剤師 検査技師		87名 71名 30名 84名 56名 11名 6名 5名 4名	
診療領域 (1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など (2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 (3) 骨関節疾患・骨折 (4) 小児疾患 (5) 神経筋疾患 (6) 切断 (7) 内部障害 (8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）		1222例 63例 134例 5例 54例 3例 32例 218例	診療領域 (1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など (2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 (3) 骨関節疾患・骨折 (4) 小児疾患 (5) 神経筋疾患 (6) 切断 (7) 内部障害 (8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など） 122例 6例 13例 1例 5例 13例 3例 21例
検査 電気生理学的診断 言語機能の評価 認知症・高次脳機能の評価 摂食・嚥下の評価 排尿の評価		0例 300例 450例 250例 70例	検査 電気生理学的診断 言語機能の評価 認知症・高次脳機能の評価 摂食・嚥下の評価 排尿の評価 0例 30例 45例 25例 7例
理学療法 作業療法 言語聴覚療法 義肢 装具・杖・車椅子など 訓練・福祉機器 摂食嚥下訓練 ブロック療法		1430例 1230例 700例 2例 1700例 650例 250例 200例	理学療法 作業療法 言語聴覚療法 義肢 装具・杖・車椅子など 訓練・福祉機器 摂食嚥下訓練 ブロック療法 143例 123例 70例 1例 170例 65例 25例 20例

医療法人輝生会 船橋市立リハビリテーション病院

〒273-2866

千葉県船橋市夏見台4-26-1

代表電話 047-439-1200

指導責任者：鮫島光博

病院ホームページ

<http://www.funabashi-reha.com/>

医師研修ホームページ

<http://www.kiseikai-reha.com/recruit/doctor/index.html>



施設概要

千葉県船橋市では、平成11年に市民および医師会からリハビリテーション病院の必要性が叫ばれ、平成14年に急性期医療を担う船橋市立医療センターに隣接した場所にリハビリテーション病院を設立することが決定しました。医療法人社団輝生会が指定管理者となり公設民営の運営形態で、平成20年4月に開院しました。

現在、医療提供体制および医療保険・介護保険制度の見直しの時期にあって、特に回復期のリハビリテーション医療は不十分な状況です。開院当初より、入院部門では、脳卒中の発症や大腿骨頸部骨折の術後できるだけ早期に急性期病院からの転院を受け入れて、集中的なリハビリテーションを実施することで、寝たきりを防止、より自立度の高い状態での自宅退院を目指す、回復期リハビリテーションサービスを提供しています。また退院後は、在宅主治医（かかりつけ医）による全身管理とともに、当院の外来や訪問部門においてリハビリテーションを継続していただくことにより、入院中に獲得した身体機能や動作能力の維持、向上を目指します。

当院は、医師11名（内指導医2名）と看護師80名、ケアワーカー63名、セラピスト総数199名、ソーシャルワーカー12名、管理栄養士6名、薬剤師5名、検査技師4名で、回復期リハビリ体制を整備し、密に連携してチーム医療を展開しています。セラピストマネージャー制をとり、これまでの病院組織における各専門職種ごとの、いわゆる「たて割り」ではなく、病棟というケア現場を中心とした多職種でのチームアプローチを推進しています。そこでは全職種が共通の目標を持って、一つのチームとして活動することをポリシーとしています。



多職種によるチームアプローチ

【併設施設・法人内関連施設】

訪問リハビリ

短時間通所リハビリ

外来リハビリ

初台リハビリテーション病院

在宅ケアセンター元浅草

在宅ケアセンター成城



理学療法室



作業療法室



作りたての食事を提供する食堂



TV、冷蔵庫完備の4人床室

研修の特徴

回復期リハ病棟では脳血管障害・脳外傷・脊髄損傷・神経筋疾患・肢切断・骨関節疾患・廃用症候群等に起因する様々な機能障害を扱うため、医師には、合併症の予防・治療だけに留まらず、様々な機能障害の適切な評価、予後予測に基づいたリハゴール設定、リハ処方や装具処方、嚥下造影・嚥下内視鏡を扱う技能、患者のやる気を引き出しつつ障害受容も促すような絶妙なインフォームドコンセント、福祉・行政などを含めた幅広い知識、チーム医療でのリーダーシップ等、医師として極めて幅広い能力が求められます。

当院の研修プログラムでは、医師がリハ医療のチームリーダーとして十分な心構え・知識・技術を身につけられるよう、リハ専門医および教育研修部、リハケア部が一丸となって教育指導体制を構築しています。

また、回復期・在宅両者の視点を持った医師に育ってもらえるよう、院内の訪問リハ部門や外来リハ部門あるいは同医療法人内の「在宅ケアセンター元浅草」や「在宅ケアセンター成城」での研修をお奨めしています。専門外来としてポリオ外来を立ち上げ、藤田医科大学より非常勤医師一名が対応しています。維持期（生活期）リハは、自宅環境での生活能力向上・本人役割の確立・QOL向上等病院での治療ではなかなか提供できないものをきめ細かく援助することが可能です。病院にしながら指示をするだけでなく、実際に訪問診療に携わり、訪問看護・訪問リハ・ケアマネジャーとの実務的な連携を図ることで、それらのノウハウをより深く学ぶことができます。在宅医療での研修が、質の高い「回復期からの家庭復帰支援、在宅ケアへのソフトランディング」を計画できる医師を養成すると考えています。

急性期リハビリの研修は、昭和大学・藤田医科大学・慈恵医大病院と連携し、専攻医のみなさんに都市部での回復期から維持期（生活期）リハビリテーションへの切れ目のない治療の流れを経験していただくことができます。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土
8:30	病棟業務 （受持患者の対応、リハビリ見学、カンファレンス、面談等）	病棟業務	病棟業務	外来 （通所リハビリ、外来リハビリ診察）	病棟業務	休み （月1回、ポリオ外来あり）
9:00						
10:00						
11:00						
12:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	
13:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	
13:30			訪問診療 （訪問リハビリの処方）			
14:00	定期 カンファレンス	定期 カンファレンス		定期 カンファレンス	定期 カンファレンス	
14:30						
15:00	自己学習	病棟業務		病棟業務	病棟業務	
15:30		ボツリヌス外来			ボツリヌス外来	
16:00						
16:30		病棟業務				
17:00		病棟業務	外来 カンファレンス	病棟業務		
17:30	臨時 カンファレンス	臨時 カンファレンス		臨時 カンファレンス		
18:00		医局会 症例検討会				

土曜勤務時は翌月曜日代休あり。

休日：当院の規約に伴い、土日含め月9-11日の休みあり。

当直および日曜日の日当直業務、オンコール対応が合計で月7日程度あり。

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）			
附属施設 訪問リハビリテーションステーション 訪問看護ステーション 通所リハビリテーション施設 居宅介護事業所			
リハビリ医（指導医）数： 病床数（回復期）：	11（2）名 173（173）床	専攻医数：	4名
入院患者コンサルト数： 外来数：	25例/週 50例/日	担当コンサルト新患者数： 担当外来数：	0例/週 25例/週
特殊外来 痙縮治療 呼吸リハ 摂食嚥下障害 小児リハ	2例/週 0例/週 0例/週 2例/週	特殊外来 痙縮治療 呼吸リハ 摂食嚥下障害 小児リハ	2例/週 0例/週 0例/週 2例/週
スタッフ数 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 看護師 ケアワーカー MSW 管理栄養士 薬剤師 検査技師	87名 71名 30名 84名 56名 11名 6名 5名 4名		
診療領域 （1）脳血管障害・外傷性脳損傷など （2）脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 （3）骨関節疾患・骨折 （4）小児疾患 （5）神経筋疾患 （6）切断 （7）内部障害 （8）その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	1366例 155例 351例 37例 87例 28例 18例 353例	診療領域 （1）脳血管障害・外傷性脳損傷など （2）脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 （3）骨関節疾患・骨折 （4）小児疾患 （5）神経筋疾患 （6）切断 （7）内部障害 （8）その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	60例 6例 15例 9例 6例 1例 1例 30例
検査 電気生理学的診断 言語機能の評価 認知症・高次脳機能の評価 摂食・嚥下の評価 排尿の評価	0例 228例 1198例 200例 165例	検査 電気生理学的診断 言語機能の評価 認知症・高次脳機能の評価 摂食・嚥下の評価 排尿の評価	0例 10例 10例 20例 8例
理学療法 作業療法 言語聴覚療法 義肢 装具・杖・車椅子など 訓練・福祉機器 摂食嚥下訓練 ブロック療法	1379例 1341例 867例 8例 414例 ほぼ全例 354例 20例	理学療法 作業療法 言語聴覚療法 義肢 装具・杖・車椅子など 訓練・福祉機器 摂食嚥下訓練 ブロック療法	60例 55例 50例 1例 50例 35例 35例 10例

佐賀大学医学部附属病院

〒849-8501

佐賀県佐賀市五丁目1番1号 代表電話：0952-34-3285

指導責任者：浅見豊子

病院ホームページ

<http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/hp/medicalcare/rehabilitationcenter/index.html>



施設概要

佐賀医科大学附属病院が開院となった昭和56年11月6日に骨・関節外来の1室で院内措置特殊診療部門リハビリテーション（リハビリ）部として診療が開始されました。昭和57年10月13日にリハビリ専門外来として外来診療を開始し、平成13年4月1日にリハビリ部として新設、平成14年11月にリハビリ科の標榜が許可され、現在は専従医師3名、理学療法士20名、作業療法士6名、言語聴覚士6名がリハビリ診療に従事しています（平成28年1月現在）。さらに佐賀県高次脳機能障害拠点機関として、支援コーディネーターも2名配置されています。



研修の特徴

①診療内容

リハビリ治療は入院患者さんを中心に月曜日から金曜日と土曜日（2回/月）に行っています。対象疾患は、脳血管等疾患（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍、もやもや病等）、神経筋疾患（パーキンソン病、MS、ALS等）、高次脳機能障害、嚥下障害、骨関節疾患（変形性関節症、骨折、RA、脊椎疾患等）、呼吸・循環器疾患、悪性腫瘍、小児疾患、廃用症候群、切断等多岐にわたり、脳血管疾患等リハビリ、運動器リハビリ、心大血管リハビリ、呼吸器リハビリ、がんリハビリ等の専門的なリハビリ治療を行っています。またNST（栄養サポート班）、緩和ケア、嚥下評価、福祉用具・住宅相談などのチームの一員として各カンファレンスにも参加しています。さらにリハビリスタッフと病棟看護師、心理療法士、医療ソーシャルワーカーがリハビリ症例の検討や勉強を行うリハビリカンファレンスを毎週開催しています。当科では急性期の入院リハビリが中心ですが、先進的あるいは特殊リハビリ領域に対しては外来リハビリも行っています。2001年より筋電義手のトレーニングを開始し、その後2015年10月には全国でも珍しいロボットリハビリ外来を開設し、多種類のロボットを使用している臨床的研究も含めたリハビリを、ボツリヌス療法、磁気刺激療法などを併用しながら行っています。また、高次脳機能障害支援、車いすや自宅改修等の環境調整支援などにも関わり、地域にも繋がりをしながらリハビリを行っています。

②社会活動

日本リハビリ医学会や日本リハビリ医学会九州地方会等の活動の他、佐賀リハビリ研究会、佐賀県リハビリ科医会、佐賀がんリハビリ研修会、佐賀県内のリハビリ専門学校の講師としての指導なども行っており、多くの勉強や活躍の場があります。

【教育】新専門医制度では、当院が基幹研修施設となり、関連研修施設（運動器、小児、回復期、地域等の施設）と連携して充実した研修プログラムを作成したいと思っています。これまでには、リハビリ専門医4名、リハビリ認定臨床医2名の誕生を支援しました。また、博士課程は平成27年までの修了者2名、現在10名在籍中、修士課程は平成27年までの修了者12名、現在1名在籍中です。海外留学経験者もあり、希望があれば海外留学も可能です。

③医局

皆和気あいあいと楽しい雰囲気の中で臨床、研究、教育に携わっています。ぜひ当医局の一員として参入してください。そして一緒に学びましょう！



【週間スケジュール】

上記以外に、専門外来（ロボットリハビリ外来、高次脳機能障害外来、BTX外来など）、院内多職種連携診療（心リハカンファ、呼吸器リハカンファ、NST診療班）等があり、希望に応じて自由に見学・参加ができます。

【専門医・指導医など（現在在籍分）】

整形外科専門医	1名	急性期病棟におけるリハビリ医師研修会終了者	2名
リウマチ科専門医	1名	嚥下機能評価研修会終了者	2名
神経内科専門医	1名	難病指定医	2名
脳卒中専門医	1名	小児慢性特定疾患指定医	1名
内科専門医	2名	日本医療機能評価機構参加医療保障制度診断協力医	1名
		がんのリハビリテーションセミナー終了者	2名

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準			
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）			
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）			
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）			
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）			
がん患者リハビリテーション料			
リハビリ医（指導医）数：	3（1）名	専攻医数：	1名
リハビリ科病床数（回復期）：	0（0）床		
入院患者コンサルト数：	70 - 80例/週	担当コンサルト新患数：	30例/週
外来数：	60 - 70例/日	担当外来数：	5例/週
特殊外来		特殊外来	
痙縮治療		痙縮治療	
摂食嚥下障害回診		訪問リハ	
小児リハ		摂食嚥下障害	
	4例/週		1例/週
	8 - 10例/週		5例/週
	3 - 5例/週		1例/週
スタッフ数			
理学療法士		20名	
作業療法士		6名	
言語聴覚士		6名	
診療領域		診療領域	
(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など		(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など	
(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷		(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	
(3) 骨関節疾患・骨折		(3) 骨関節疾患・骨折	
(4) 小児疾患		(4) 小児疾患	
(5) 神経筋疾患		(5) 神経筋疾患	
(6) 切断		(6) 切断	
(7) 内部障害		(7) 内部障害	
(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）		(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	
	1300例		30例
	100例		5例
	1000例		35例
	50例		5例
	200例		10例
	50例		4例
	350例		10例
	200例		15例
検査		検査	
電気生理学的診断		電気生理学的診断	
言語機能の評価		言語機能の評価	
認知症・高次脳機能の評価		認知症・高次脳機能の評価	
摂食・嚥下の評価		摂食・嚥下の評価	
排尿の評価		排尿の評価	
	10例		5例
	300例		10例
	80例		20例
	300例		30例
	0例		2例
	3200例		30例
理学療法		理学療法	
作業療法		作業療法	
言語聴覚療法		言語聴覚療法	
義肢		義肢	
装具・杖・車椅子など		装具・杖・車椅子など	
訓練・福祉機器		訓練・福祉機器	
摂食嚥下訓練		摂食嚥下訓練	
ブロック療法		ブロック療法	
	2000例		30例
	500例		30例
	6例		3例
	93例		20例
	80例		20例
	150例		20例
	150例		20例

JA三重厚生連 松阪中央総合病院

〒515-8566 三重県松阪市川井町字小望102

代表電話：0598-21-5252

病院ホームページ：

http://www.miekosei.or.jp/1_mch/



施設概要

松阪中央総合病院は、昭和36年に開院した、三重県厚生農業協同組合連合会に所属する病院です。標榜診療科数が20科ある総合病院(440床)で、専門性の高い診療を提供しています。日本医療機能評価機構認定病院であり、職員一同が常に「品質」の観点から業務改善に取り組んでいます。

地域医療の中核を担う病院として、基幹型臨床研修指定病院、労災保険指定病院、救急告示病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院といった各種指定・認定を受けています。

所在地である松阪市は人口約16万8千人、高齢化率27%(平成27年5月現在)と全国平均よりやや高齢化が進んでおり、リハビリテーションのneedsも高い地域です。

リハビリテーション科は平成9年に新設され、リハビリテーション専門医1名が常勤し、急性期および生活期のリハビリテーションに力を入れています。

脳卒中はもちろんですが、呼吸器疾患や循環器疾患、腫瘍性疾患、廃用症候群等、幅広い症例を受けもち、他科医師、療法士、看護師、MSW等と密に連携してチーム医療を展開しています。また高次脳機能障害支援の拠点病院として三重県身体障害者総合福祉センターとも強く協力しています。

リハビリ症例数は最近1年で1464例、脳血管疾患34%、骨関節疾患30%、内部疾患14%、廃用・癌17%、その他5%です。

研修の特徴

①リハビリテーションの基本的な流れがわかる

当院は高度急性期病院としてリハビリを提供しています。対象となる疾患は多岐にわたり、専門医取得に必要な領域の疾患・障害を経験することができます。また、外来では回復期病院から退院した症例も数多く、生活期におけるリハビリも積極的に施行しています。そのため、各ステージに応じたリハビリを学べる環境です。

②地域におけるリハビリテーションのリーダーとなる

当地域では高齢者が多く、リハビリテーションへのニーズが多岐にわたります。その知識・技術はすべての医療・介護・福祉スタッフに必須のものです。専攻医はリハ教育（初期研修医に対する地域医療研修、研修医・介護職向け講義等）や療法士の学会発表指導を指導医とと

もに経験します。また、医療介護の地域連携会を企画し、地域医療におけるリハビリテーションをリードする行動を身につけます。

③指導医によるマンツーマンの指導下での臨床診療

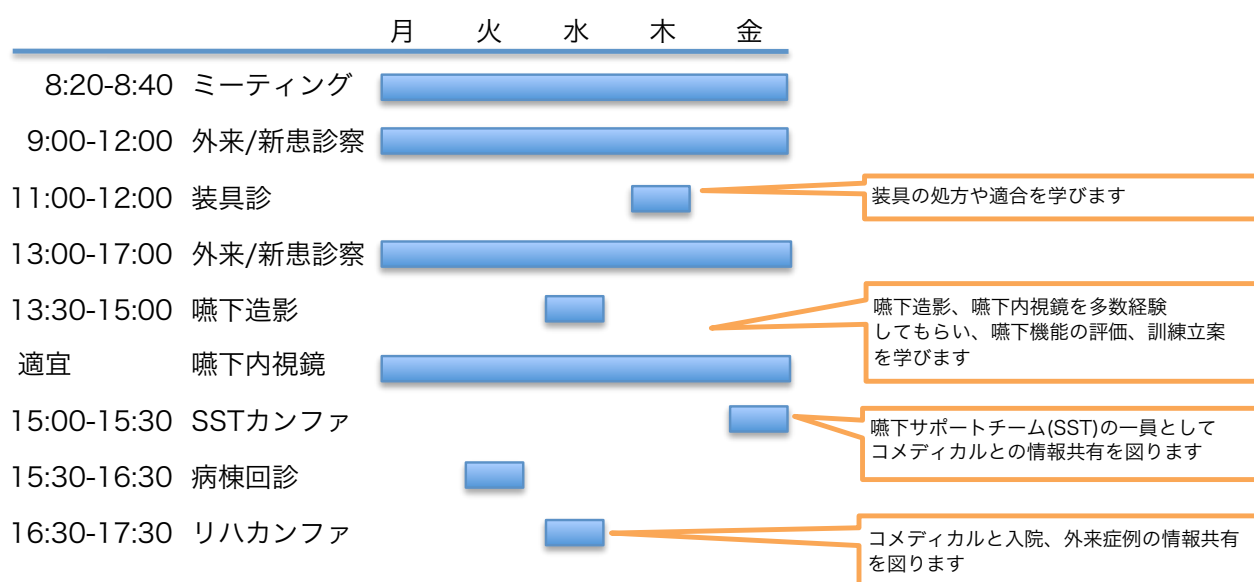
指導医1名と専攻医1名の少人数体制です。症例を通して指導医が日々、マンツーマンで指導します。3ヶ月毎にフィードバック面談を行い、目標設定しながら研修を進めます。

④指導医によるマンツーマンの指導下での臨床診療

当院では摂食嚥下障害に対する評価依頼が開業医からも多数あり、年間300例程の検査(嚥下内視鏡・嚥下造影)を経験できます。また、定期的に他の厚生連の病院に出張し、嚥下回診を行うこともあります(年間120例)。当院ではSTが1名と少ない人数ですが、摂食嚥下リハ学会認定士を中心に、リハビリ医、作業療法士、歯科衛生士、病棟看護師、管理栄養士からなる嚥下サポートチーム(SST)を平成21年に立ち上げ、trans-disciplinary team approachを実践しています。当院はチーム医療に積極的で、栄養サポートチームや呼吸サポートチーム、糖尿病教育チーム、緩和ケアチーム等、数多くの専門チームがあり積極的に連携しています。

また、高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業(三重県モデル)の基幹病院として、他の病院で難しかった高次脳機能障害の診断(画像・神経心理学的検査)を実施し、展開期から社会復帰後のアフターフォローまで、三重県身体障害者総合福祉センターと強い協力をもって行っています。

【週間スケジュール】



	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00 朝礼・ミーティング	●	●		●			
9:00-12:00 リハ患者診療	●	●	●	●	●		
12:00-13:00 医局ミーティング	●		●		●		
13:00-17:15 リハ患者診察	●	●	●	●	●		
16:45-17:15 がんリハカンファ		●					
16:45-17:15 リハ全体カンファ				●			
7:30-8:30 脳卒中カンファ					●		
09:00-12:00 嚥下回診（VF/VE）					●		
14:00-16:30 嚥下回診（VF/VE）			●				
18:00-21:00 関連施設合同カンファレンス (3-4ヶ月に1回)							

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準			
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）			
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）			
心大血管リハビリテーション料（Ⅰ）			
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）			
がん患者リハビリテーション料			
リハビリ医（指導医）数：	1（1）名	専攻医数：	1名
病床数（リハビリ科）：	440（0）床		
入院患者コンサルト数：	20～50例/週	担当コンサルト新患数：	10例/週
外来数：	5～15例/日	担当外来数：	5例/週
特殊外来		特殊外来	
痙縮治療		痙縮治療	
小児リハ		小児リハ	
摂食嚥下障害		摂食嚥下障害	
	1～5例/週		1例/週
	1～5例/週		1例/週
	4～10例/週		5例/週
スタッフ数			
理学療法士		10名	
作業療法士		5名	
言語聴覚士		1名	
診療領域		診療領域	
(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など		(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など	
(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷		(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	
(3) 骨関節疾患・骨折		(3) 骨関節疾患・骨折	
(4) 小児疾患		(4) 小児疾患	
(5) 神経筋疾患		(5) 神経筋疾患	
(6) 切断		(6) 切断	
(7) 内部障害		(7) 内部障害	
(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）		(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	
	500例		200例
	19例		5例
	445例		100例
	5例		2例
	33例		15例
	7例		0例
	210例		100例
	250例		100例
検査		検査	
電気生理学的診断		電気生理学的診断	
言語機能の評価		言語機能の評価	
認知症・高次脳機能の評価		認知症・高次脳機能の評価	
摂食・嚥下の評価		摂食・嚥下の評価	
排尿の評価		排尿の評価	
	0例		0例
	28例		10例
	304例		100例
	300例		150例
	0例		0例
	1359例		300例
理学療法		理学療法	
作業療法		作業療法	
言語聴覚療法		言語聴覚療法	
義肢		義肢	
装具・杖・車椅子など		装具・杖・車椅子など	
訓練・福祉機器		訓練・福祉機器	
摂食嚥下訓練		摂食嚥下訓練	
ブロック療法		ブロック療法	
	684例		300例
	218例		100例
	1例		0例
	40例		20例
	0例		0例
	300例		50例
	10例		5例

医療法人松徳会 花の丘病院

〒515-0052 三重県松阪市山室町707-3

TEL：0598（29）8700

FAX：0598（29）8739

理事長・院長：松本隆史

病院ホームページ：<http://www.shoutoku.or.jp>



施設概要

当院は三重県中南勢地域に位置する松阪市（人口約17万人、高齢化率約27%）の中で、唯一の回復期リハビリテーション病棟(入院患者の内訳：運動器疾患 約7割、脳血管疾患 約3割)を有している病院です。地域の基幹病院との連携も積極的に行っており、脳卒中・大腿骨医療連携パスの連携病院となっています。

また、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにも力を入れています。特に訪問リハビリテーションの人員は市内最大級であり、この地域では数少ない言語聴覚士による訪問も行っています。他にも市内の介護予防事業（運動・認知）や生活習慣病予防に関わる運動療法指導にも、リハビリテーション専門職が関わっています。

関連グループ法人では、介護老人保健施設、グループホーム、有料老人ホーム、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、訪問介護を持ち、いわゆる保健・医療・福祉の複合体を展開しています。

また、病院と介護老人保健施設ではISO9001認証を取得し品質改善を継続する中で、利用者主体の運営を行い、リハビリテーションを主軸として在宅生活支援、自立支援を中心とした地域に根ざしたサービスの提供に努めています。

研修の特徴

①地域包括ケアを意識した回復期～生活期リハビリテーションについて理解を深める

近年の診療報酬・介護報酬改定において注目されている地域包括ケアシステムは、「地域の実情に依拠して、高齢者が、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制（出典：『持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律』平成25年法律第112号第4条第4項）と定義されています。当院の回復期リハビリテーション病棟に入院する患者の平均年齢は80歳を超えており、何らかの障害を抱えた高齢者が地域で暮らし続けるためには、

生活期リハビリテーションや多職種多機関、地域住民らとの連携は必須となります。また、自宅退院後に訪問リハビリテーション利用者の診療にも関わることで、本当の意味での生活の課題に取り組むことができます。まさしく、地域包括ケアを意識したリハビリテーションのあり方を学ぶことができる環境です。

②予防医療、介護予防など地域における医療、リハビリテーションについて実践力を身につける

当院の所在地である松阪市は市直営の地域包括支援センターがなく、代わりに市から委託を受けた5つの団体によって運営されています。しかし、委託先は自前のリハビリテーション資源が乏しいため、当院を中心に介護予防事業などの講師を担っています。具体的には一般住民を中心とした介護予防サポーターの養成、一次・二次介護予防事業の講師などを経験することができます。また、今後は行政や生活支援コーディネーターらとともにリハビリテーション修了後の社会資源の調査、開発においても関わる事が予想されており、これからのリハビリテーション医療に求められる地域での実践力を身につけることができます。



【週間スケジュール】

時間	内容	月	火	水	木	金	土
8:00 - 9:00	申し送り	●	●	●	●	●	
9:00 - 12:00	病棟業務	●	●	●	●	●	
	新患対応	●	●	●	●		
	訪問リハビリ診療		●		●	●	
9:30 - 10:30	装具外来				●		
10:30 - 11:00	嚥下造影検査				●		
11:00 - 11:30	嚥下カンファレンス				●		
12:00 - 13:00	伝達講習会、ミニ研修会（随時）						
13:00 - 17:00	病棟業務	●	●	●	●		
	訪問リハビリ診療	▲				●	
	回復期リハ病棟連絡会（月1回）				●		
14:00 - 15:00	病棟カンファレンス	●	●	●	●		
17:00 - 17:30	リハビリ科内連絡会（月1回）						
	グループカンファレンス（月2回）						
17:30 - 18:00	リハビリ科内各種研修会（月2回以上）						

回復期リハ病棟入院は、月～木の午前中で

訪問リハ診療は、外来・往診で対応

学会など参加時に伝達講習実施

病棟カンファレンスは、医師、病棟、リハ、地域連携室の合同

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準			
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）			
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）			
がん患者リハビリテーション料			
附属・関連施設			
訪問リハビリテーション			
訪問看護ステーション			
通所リハビリテーション			
居宅介護支援事業所			
介護老人保健施設			
グループホーム			
リハビリ医（指導医）数：		1（0）名	専攻医数：
（藤田医科大学七栗記念病院から指導医2名が定期的に訪問）			1名
病床数（回復期）：		96（45）床	
スタッフ数			
理学療法士		21名	
作業療法士		15名	
言語聴覚士		3名	
診療領域		診療領域	
（1）脳血管障害・外傷性脳損傷など		54例	（1）脳血管障害・外傷性脳損傷など 20例
（2）脊椎脊髄疾患・脊髄損傷		1例	（2）脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 1例
（3）骨関節疾患・骨折		11例	（3）骨関節疾患・骨折 5例
（4）小児疾患		1例	（4）小児疾患 1例
（5）神経筋疾患		1例	（5）神経筋疾患 1例
（6）切断		1例	（6）切断 1例
（7）内部障害		125例	（7）内部障害 40例
（8）その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）		18例	（8）その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など） 5例
検査		検査	
電気生理学的診断		0例	電気生理学的診断 0例
言語機能の評価		19例	言語機能の評価 8例
認知症・高次脳機能の評価		16例	認知症・高次脳機能の評価 8例
摂食・嚥下の評価		63例	摂食・嚥下の評価 30例
排尿の評価		0例	排尿の評価 5例
理学療法		312例	理学療法 40例
作業療法		187例	作業療法 40例
言語聴覚療法		12例	言語聴覚療法 6例
義肢		1例	義肢 1例
装具・杖・車椅子など		187例	装具・杖・車椅子など 30例
訓練・福祉機器		187例	訓練・福祉機器 45例
摂食嚥下訓練		17例	摂食嚥下訓練 4例
ブロック療法		0例	ブロック療法 0例

社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院

〒780-0843 高知県高知市廿代町2丁目22番地

代表電話：088-822-5231

指導責任者：和田恵美子

病院ホームページ：http://www.toyota-kai.or.jp



高知駅より徒歩5分
繁華街の中にある都市型リハビリテーション病院です。

施設概要

当院は高知県中央医療圏（診療圏人口約60万人）に位置する病床数180床の回復期リハビリテーション病院です。1989年に開設し、2015年9月に新築移転しました。

社会医療法人近森会内に地域医療支援病院である近森病院（病床数512床、SCU24床）、整形外科の回復期リハビリテーション病院である近森オルソリハビリテーション病院（病床数100床）があります。

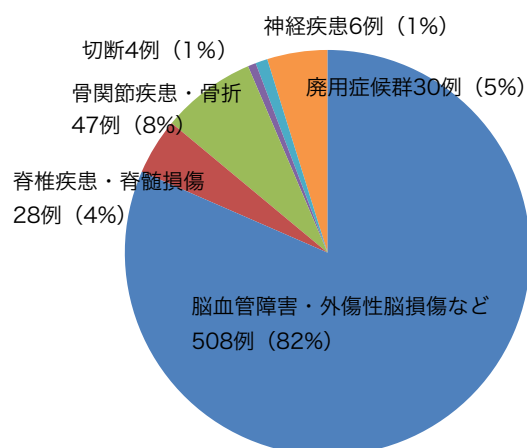
中央医療圏の急性期病院である近森病院、高知赤十字病院、高知医療センターと連携し回復期の患者さんを在宅復帰につなぐ脳卒中・脊髄損傷を中心とした回復期リハビリテーション病院です。

当院の医師は8名（うち、後期研修医2名）です。リハビリテーション科専門医3名（指導医2名）であり、急性期病院との連携、定期的な勉強会の開催など充実した研修体制をとっています。

またグループ内に社会福祉法人を持ち、自立訓練・就労移行支援・施設入所・就労継続支援B型・障害児童のための放課後などディサービス・グループホームなどの活動も行っています。

急性期から生活期、就労支援までの幅広い領域での継続した診療を行っています。

当院患者疾患内訳(2015年実績)



研修の特徴

① 本気のチームアプローチの研修ができる

当院は25年以上の歴史を持つ単独の回復期リハビリテーション病院としてリハビリテーションナースをはじめとした熟練のスタッフが数多く在籍しています。また急性期・回復期・生活期のすべてのステージでのリハビリテーション活動に積極的に介入しています。各ステージを経験したスタッフと一緒にチームアプローチが体験できることはほかでは得られない体験だと思われます。

また、NST活動も積極的に行っており、栄養管理に管理栄養士が積極的に介入しています。病棟に

配置された薬剤師もいます。管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、医療秘書なども加えたチームアプローチが体験できます。

② 脳血管障害の急性期から回復期を重症から軽症まで体験できる

脳血管障害や外傷性脳損傷の入院患者が80%を超えており、重症例から軽症例までリハビリテーションをしています。特に毎週行われる装具外来では回復期入院中の患者さんの装具の処方（年間250例）だけではなく、身体障害者手帳を使用しての更生装具（年間40例）も作製し、さまざまな種類の装具、車椅子を処方しています。嚥下検査としては嚥下内視鏡（月10例）、嚥下造影（月50例）施行されており嚥下食などにも力を入れています。

③ フィードバックのある回復期リハビリテーション病棟が体験できる

回復期退院後も外来通院や訪問リハビリテーション、障害者支援施設で患者さんの経過を観察することができます。自分たちのおこなった回復期リハビリテーションの結果をフィードバックされて初めてリハビリテーション科医は成長できると考えています。次のステージまでをみすえたりリハビリテーションを思考することができるようになります。

④ 屋根瓦方式の指導体制

常勤指導医2名、専門医1名に専攻医の上級医を加えた屋根瓦方式で指導します。習得したい内容に合わせて個別の研修内容も検討できます。主に回復期リハビリテーション病棟担当医として診察技術、面談技術を学ぶだけでなく、地域活動などにも参加することが可能です。学会参加、研修会活動も積極的に参加しています。特に嚥下改善術を行っている高知大学耳鼻咽喉科とは定期的な勉強会を通じ症例相談も行っています。嚥下改善術の適応や、改善術後のリハビリテーションも勉強ができます。

【週間スケジュール】

		月	火	水	木	金	
8:00-8:30	脳卒中カンファレンス						急性期のSCUカンファレンスに参加できます
8:30-9:00	症例検討会						
9:00-11:30	外来業務						嚥下造影、嚥下内視鏡検査も多職種参加で行われています
9:00-10:00	リハミーティング						
9:00-10:00	嚥下造影検査（VF）						患者25人のユニットで病棟管理を行います
9:00-11:20	病棟業務						
11:20-12:30	新患						新患のレビューや情報共有
11:30-12:30	ボトックス外来						ボトックスは電気刺激、超音波を併用しています
13:30-15:30	装具診						
14:00-15:00	回復期カンファレンス						
16:00-17:00	嚥下回診						

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準			
脳血管疾患等リハビリテーション料（I）			
運動器リハビリテーション料（I）			
呼吸器リハビリテーション料（I）			
回復期リハビリテーション病棟入院料（I）			
附属・関連施設			
訪問リハビリテーションステーション			
訪問看護ステーション			
社会福祉法人			
回復期リハビリ病院（整形）			
急性期病院			
リハビリ医（指導医）数：	3（2）名	専攻医数：	1名
回復期リハビリ病床数：	180床	担当患者数	30-50名
外来数：	15例/日	外来数：	2例/週
特殊外来		特殊外来	
ボトックス	1例/週	ボトックス	1例/月
訪問リハ	20例/月	訪問リハ	1例/週
スタッフ数			
理学療法士	81名		
作業療法士	60名		
言語聴覚士	30名		
診療領域		診療領域	
(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など	707例	(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など	176例
(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	39例	(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	9例
(3) 骨関節疾患・骨折	57例	(3) 骨関節疾患・骨折	14例
(4) 小児疾患	0例	(4) 小児疾患	0例
(5) 神経筋疾患	0例	(5) 神経筋疾患	0例
(6) 切断	7例	(6) 切断	1例
(7) 内部障害	0例	(7) 内部障害	0例
(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	50例	(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	12例
検査		検査	
電気生理学的診断	0例	電気生理学的診断	0例
言語機能の評価	523例	言語機能の評価	130例
認知症・高次脳機能の評価	695例	認知症・高次脳機能の評価	173例
摂食・嚥下の評価	337例	摂食・嚥下の評価	84例
排尿の評価	0例	排尿の評価	0例
理学療法	859例	理学療法	214例
作業療法	857例	作業療法	214例
言語聴覚療法	523例	言語聴覚療法	130例
義肢	4例	義肢	1例
装具・杖・車椅子など	191例	装具・杖・車椅子など	47例
訓練・福祉機器	10例	訓練・福祉機器	2例
摂食嚥下訓練	15417例	摂食嚥下訓練	3854例
ブロック療法	0例	ブロック療法	0例